平成21年度　春期　システム監査技術者試験　出題趣旨

午後II試験

問1

出題趣旨
近年，情報漏えい防止の観点からシンクライアントが注目されている。既に多くの組織がシンクライアントを採用し，一定の成果が現れている。情報セキュリティ対策の一環としてシンクライアントを導入する企業が多いが，このほかに勤務形態の多様化，事業継続管理への適用，消費電力削減による二酸化炭素排出量削減など，様々な効果が得られている。しかし，これまでのIT環境からシンクライアント環境に移行する場合には，特有のリスクが伴う。 本問では，システム監査人として，シンクライアントに関する技術的な知識を踏まえて，業務や勤務形態などに対する効果とリスクを理解した上で，監査を実施する知識や能力があるかどうかを評価する。

問2

出題趣旨
業務のシステムへの依存度が高まる中，監査対象となるマスタデータやトランザクションデータなどの量が増大している。また，情報セキュリティや内部統制の観点からデータやシステム環境などへのアクセス権限の付与が複雑になっている。このような状況において，システム監査におけるログの利用はますます重要になってきている。一方で，監査対象となるログの選定や入手方法が適切でない場合には，誤った監査結果を生じさせる可能性もある。 本問では，システム監査人として，監査目的に照らして適切な種類や対象期間のログを選定し，入手・分析するための知識や能力があるかどうかを評価する。

問3

出題趣旨
情報システムに不具合や障害などが発生した場合における業務・サービスの停止や機能低下の影響度が大きくなっていることから，情報システムに対する信頼性確保の要請が高まっている。情報システムの信頼性確保においては，業務やサービス提供などの重要度，当該情報システムの不具合や障害による影響度などを考慮しなければならない。 本問では，システム監査人として，IT環境の特徴を踏まえた情報システムの信頼性確保を確かめるため，リスクと対応策を想定しながら企画・開発段階における監査を実施する知識や能力があるかどうかを評価する。